

會 告

日本鐵鋼協會第十一回講演大會 講演者募集

来る昭和八年十月中旬名古屋市に於て本會第十一回（秋季）講演大會を催しますから此の好機會に御出演御希望の方は下記要項御含みの上奮て御申込下さい。

開 會 期 日 日 程

十月十五日（日曜日）	研究部會	十月十八日（水曜日）	見 學
十月十六日（月曜日）	講演會	十月十九日（木曜日）	
十月十七日（火曜祭日）			

尚ほ詳細なるプログラムは決定次第追て掲載致します。

昭和八年六月

日本鐵鋼協會

應募講演題目及講演者氏名

1. 電氣鐵鈹の製作に就て 川崎造船所製鈹工場製鋼課技師 工學士 西山彌太郎君
薄鈹課技師 工學士 中島道文君
2. 工具用特殊鑄鐵の豫備的研究 住友伸銅鋼管株式會社技師 理學士 絹川武良司君
3. 熔融狀態に於ける熔銑爐鑄滓の粘性に就て
大阪帝國大學助教授 工學士 松川達夫君
4. 鐵鋼及特殊鋼の高温硬度に就て 東北帝國大學教授 工學博士 濱住松二郎君

要 項

1. 講演申込期日は昭和八年七月三十一日限りとし、（締切は勵行致します）同期日迄に演題と其講演大要（約800字以内）*を必ず本會宛御送付の事。本會にては其大要集を編纂し出席申込者へ出來得る限り早く配布します。
 2. 七月三十一日までに論文の全文を御送り下されば論文全部の前刷を作り出席者に配布致します。此場合と雖も講演大要は是非とも御送附を願ひます。
 3. 講演の詳細は本會々誌「鐵と鋼」に掲載致しますから當日の御講演は25分以内に願ひます、尚ほ實際に要する時間を御申込と同時に御記入下さい。
- *講演大要は從來2,500字以内でしたが日本工學會發行の「工學論文要錄」へ其儘寄稿する便宜上今回から日本工學會の希望に合致せしめる爲め約800字以内に變更しましたから御諒承願ひます。

「工學論文要錄」の發刊

今般日本工學會構成の本會を併せ十二學協會々誌に發表掲載の論文及報告の要旨の摘録を四六倍版30頁内外にまとめ毎月一回上記の書名で出版する事になりました。購讀御希望の方は下記へ御申込下さい。（第一卷第二號は發行になりました）

豫約申込先	（東京市丸ノ内一丁目二番地	日本工學會
	（東京市赤坂區田町七丁目三番地	龍吟社
定 價	1ヶ年分	金三圓（郵税共）
	1部	金貳拾五錢（送料二錢）

尚ほ「要錄」見本御希望の本會々員に對しては部數80部を限り本會より無償配布致しますから至急日本鐵鋼協會宛御申込下さい。（限度を超ゆるときは先着順で差上ます。）

八幡製鐵所製日本鐵鋼標準試料頒布

鐵鋼の標準試料が現代分析に従事する者に取りて貴重なる事は多言を要せざる所にして既に英米獨に於ても之を製作して汎く國內に頒布し之に依て分析の誤差を是正し且分析方法の可否を判定するの用に供せらる。然るに本邦に於ては未だ其企なかりし爲高價なる標準試料を海外よりの輸入に待てり。

八幡製鐵所は茲に見る所あり多大の犠牲を拂ひて之を製作し廣く官民分析所の便に供せんことを期し目下外國品に比し半額に足らざる廉價を以て之を頒布せらるることとなり特に其權威を保持せんが爲め鐵鋼學術並に技術の振興機關たる本會對し其一手頒布權を分與せられたり。今其標準試料の特色を擧ぐれば

1. 最も周到なる注意と煩瑣なる手数を拂ひて完全なる平均試料を採取し且つ試料粒の均整を期したること
2. 分析方法は日本標準分析規格を採用し權威ある官民分析所 11ヶ所に依頼し各所別並に其平均分析を表示したる證明書を添附せること
其一例を示せば右表の如し
3. 試料壘は之を密封して酸化變質を防止し其外装紙筒には平均分析を記入せること（其外觀は寫眞に示す如し）
目下作製せられたる試料及價格は次の6種なるも今後他の試料をも順次作製せらるる豫定なり。

日本鐵鋼標準試料 分析成績

第四號 炭素鋼 (C=0.6% 鹽基性平爐鋼)

分析成分	炭素 C %	珪素 Si %	マンガン Mn %	磷 P %	硫黃 S %	銅 Cu %	ニッケル Ni %
標準値	0.61	0.099	0.73	0.023	0.023	0.12	0.028
分析者							
1	0.605	0.093	0.720	0.023	0.023	0.118	0.026
2	0.609	0.093	0.730	0.021	0.022	0.123	0.030
3	0.607	0.099	0.728	0.024	0.023	0.117	0.030
4	0.605	0.101	0.731	0.023	0.023	0.117	0.029
5	0.603	0.102	0.731	0.022	0.021	0.117	0.025
6	0.603	0.102	0.732	0.024	0.022	0.117	0.028
7	0.606	0.102	0.730	0.023	0.023	0.117	0.032
8	0.614	0.100	0.726	0.023	0.022	0.118	0.029
9	0.611	0.099	0.722	0.022	0.024	0.112	0.025
10	0.600	0.105	0.736	0.022	0.023	0.127	0.031
11	0.603	0.093	0.710	0.022	0.024	0.113	0.027
平均値	0.606	0.099	0.727	0.023	0.023	0.118	0.028

分析方法 日本標準規格規程及鋼分析方法

日本標準規格 第55號 鐵及鋼炭素分析方法 (昭和四年五月十三日 商工省告示第20號)

日本標準規格 第56號 鐵及鋼珪素分析方法 (昭和四年五月十三日 商工省告示第20號)

日本標準規格 第86號 鐵及鋼「マンガン」分析方法 (昭和六年十月六日 商工省告示第47號)

日本標準規格 第87號 鐵及鋼磷分析方法 (昭和六年十月六日 商工省告示第47號)

(硫黃、銅及「ニッケル」分析方法規格ハ追ッテ官報ニテ告示セラル、管ナリ)

分析者

(五十音順)

- 1 大阪工業試験所
- 2 海軍技術研究所
- 3 商工省鐵山局
- 4 製鐵所
- 5 鐵道大臣官房研究所
- 6 東京工業試験所
- 7 東京帝國大學工學部 (工業分析化學研究室)
- 8 東京帝國大學工學部 (鐵冶金屬研究室)
- 9 三井鐵山株式會社日黑試驗所
- 10 財團法人理化學研究所
- 11 陸軍科學研究所

昭和七年二月

製鐵所

品名	一壘の容量	價格	備考
第一號 C=0.1%	150瓦	8.00	代金の外に送料を要す。
第二號 C=0.2	150 "	8.00	
第三號 C=0.4	150 "	8.00	
第四號 C=0.6	150 "	8.00	
第五號 C=0.8	150 "	8.00	
第六號 鼠銑鐵 C=2.8	150 "	10.00	



本會は常に相當の在庫品を準備してあるを以て各所の注文に應じ速に發送し得る用意有之候間何卒御注文あらんことを希望仕候